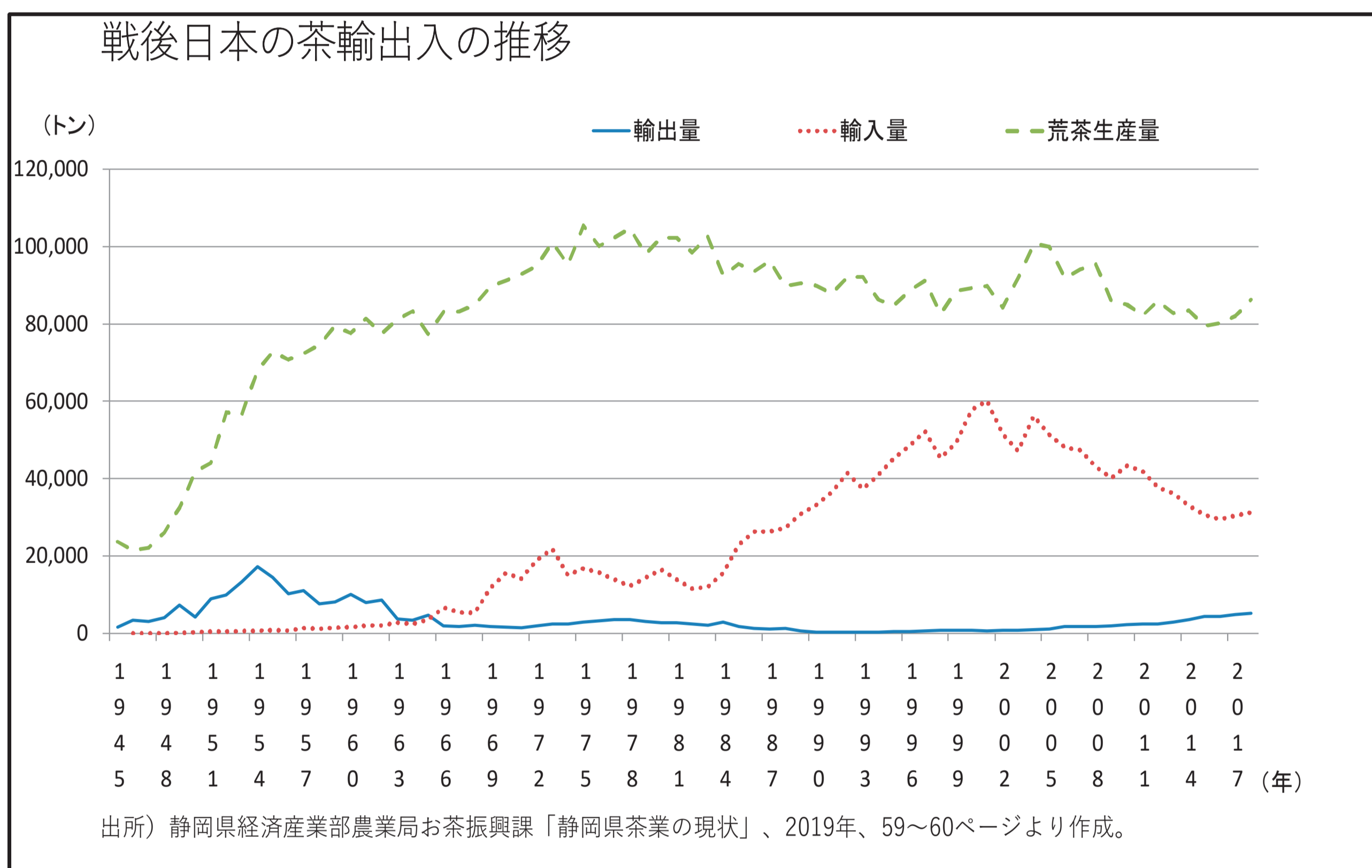


戦後の動き

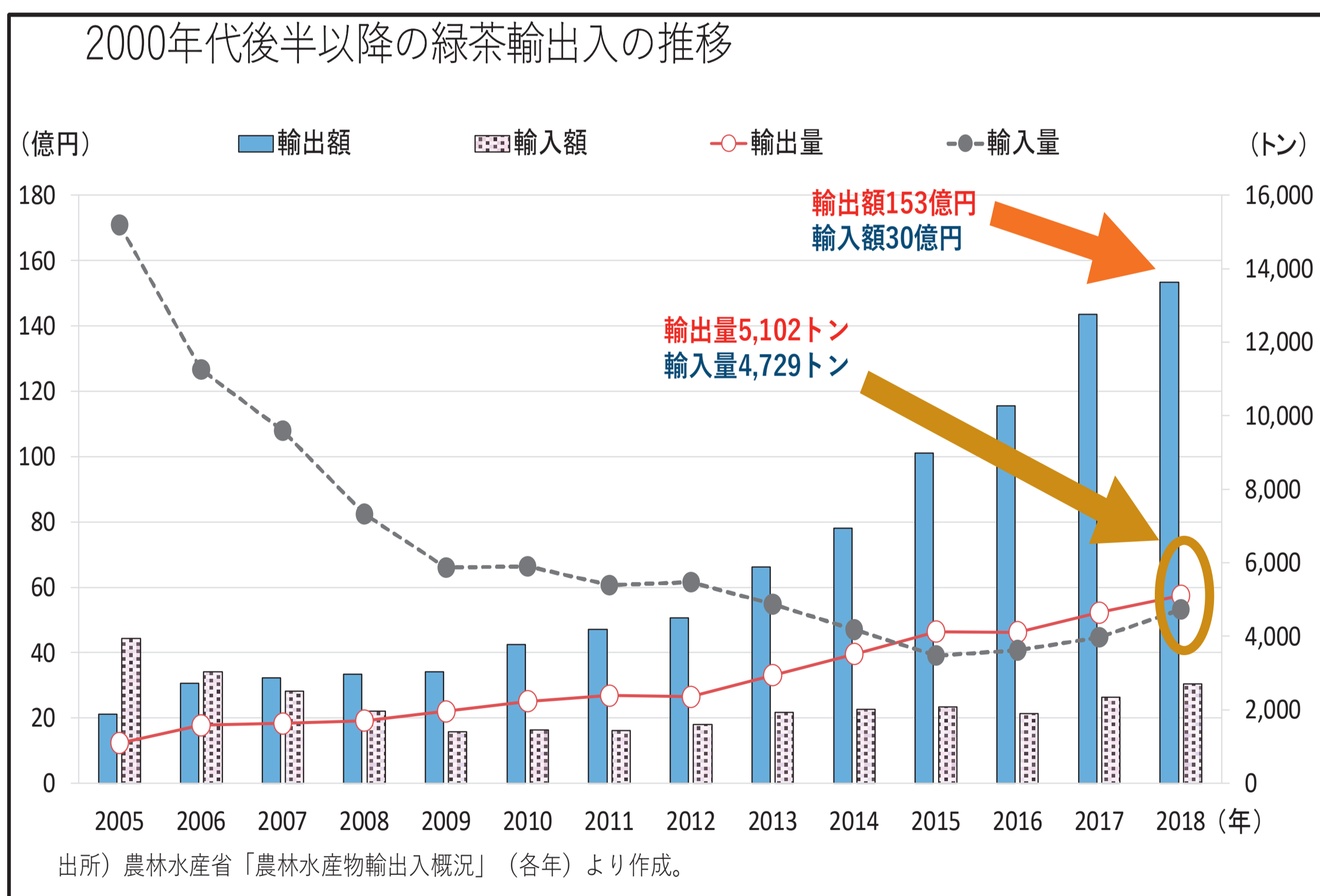
1945年の敗戦後、日本茶の生産は再び活況を取り戻します。また再び茶輸出も行われることになりました。1940年代後半から50年代前半の、いわゆる戦後復興期に輸出は伸びていき、輸出量も1万トン以上を記録します。輸出先も、アメリカに代わり、**モロッコ・タンジール・アルジェリア・チュニジア・リビア・エジプトなどの北アフリカ**をはじめ、チリやペルーなどの南米にも輸出されていきます。

しかし、輸出先である国の政情不安や茶の需要低迷などもあり輸出の好調は持続せず、1950年代後半から70年代前半の、いわゆる高度成長期には輸出は下火になります。代わりに**台湾や中国からの輸入**が伸びていきました。こうして日本では、次第に茶は**国内消費**がメインとなる一方、輸出については継続するものの、その勢いはほぼ失われました。

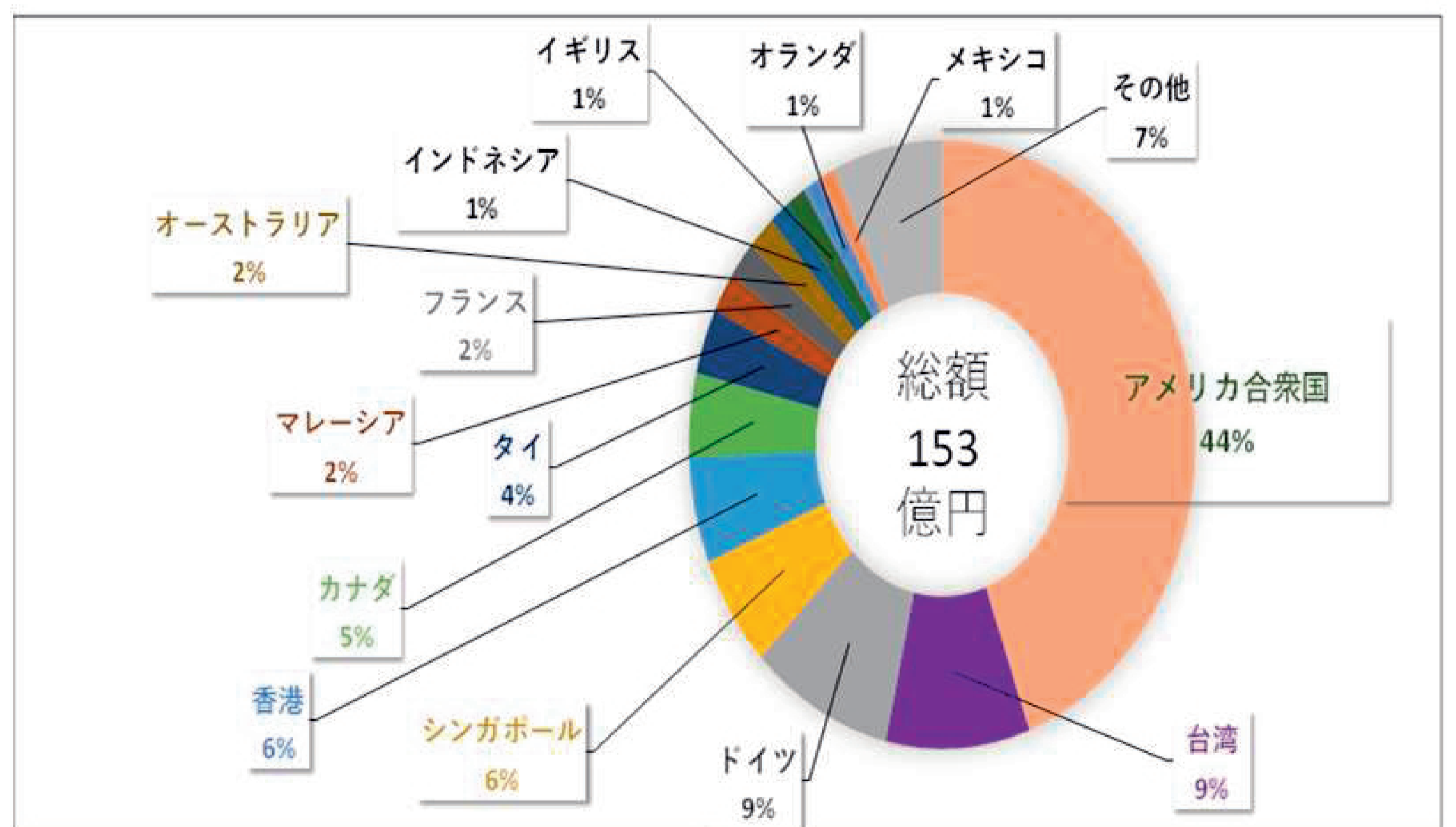
ところが近年になり、日本茶輸出は再び注目を集めるに至ります。特に2000年代後半からの**抹茶**を中心にした輸出の勢いはとても強く、国内の生産量・消費量、および輸入量が停滞あるいは減少傾向をみせるなかで注目すべき動きとあってよいでしょう。



- ・近年の動きは政府も注目しており、**2020年までに緑茶輸出額150億円到達を目標**にしていましたが、それは**昨年（2018年）**にすでに達成！！
- ・近年の輸出先は戦前期と同様にアメリカが中心で、健康志向の高まりや日本食ブームがその背景にあるとされています。
- ・一方で、輸入量が以前より減退し、また生産量が停滞していることは、**茶の国内消費の伸びがやや鈍くなっている**ことも意味しているといえます。



輸出国別にみた輸出額の割合（2018年）



それぞれの展示内容

以上、簡単ではありますが、これまでの茶業・茶輸出の歩みをみてきました。当展示会では、ここでみてきた内容をさらに深めることのできるポスター展示が揃っています。また、本日のシンポジウムでの報告にも、ここでの内容および各展示とリンクするものがあります。

- 抹茶の消費や製造の歴史について知りたい方は……「**日本における茶磨の需要**」へ
- 急須やペットボトルなど、茶の容器やその歴史について知りたい方は……「**戯作から読む江戸時代の喫茶文化**」・「**茶の飲まれ方の変化（簡便性緑茶変遷とリサイクル）**」へ
- 蘭字について詳しく知りたい方は……「**蘭字研究の最前線**」へ
- 静岡茶や外国商人などの戦前期の様相について知りたい方は……「**意外と知らない？戦前期の静岡茶の歴史**」・「**英国系茶貿易会社グループの近代東アジアにおける動向の解明に向けて**」・「**万国博覧会と日本茶**」へ
- 戦後の静岡茶の様相について知りたい方は……「**静岡市茶町界隈でのお茶取引や流通の様子**」へ
- 戦後の茶の輸入状況について知りたい方は……「**静岡県の茶業者が、台湾緑茶の輸入を真剣に考えていた頃**」へ